



●目次

はじめに 2

地元学によせて 3

こんな暮らしがあった 7

町場の暮らし 8

商店のにぎわい 13

ちよつと昔の年中行事 18

講 24

田畑の仕事 28

牛馬を飼う 43

農家の食事 46

嫁入り、出産 51

子供の暮らし 54

娯楽のいろいろ 62

戦争中の生活 64

原町本通り 67

鉄砲町 二十人町 99

榴ヶ岡 129

宮城野 153

柗江 二の森 安養寺	181
新田	203
小鶴 燕沢	217
田子	241
岩切	259
鶴ヶ谷	287
暮らしをささえた街道・鉄道・水路	311
街道	312
鉄道	324
水路	329
宮城野区の小学校校歌	339
調査担当者・協力者一覧	348
「地元学」って何？	352
「地元学」の歩み	354
「地元学の会」とは	355
編集後記	

●題字は千葉勝衛氏  
 (元宮城野区長)

# 町場の暮らし

井戸とかまどの暮らし。

水汲みやかまど焚きなど、たくさんの仕事をこなすために、  
女たちは朝早くから働きました。

## 商家のしきたり

・横座があり、おじいさん、おばあさんが座った。先代を大事にし、かつての奉公人たちが来ると仏前に手を合わせてからでないと、当代主人の前には出られなかった。使用人たちは、旧暦十月二十日（新暦の十一月下旬〜十二月初旬頃）のえびす講以降でないと、足袋ははけなかった。

（原町・鳥山義雄さん、ふみさん）

## 商家の食生活

・質素で炭などはほとんど使用せず、山伐りで作った薪を利用して煮炊きをしたし、風呂も囲炉裏もそうであった。食事は、一汁一菜がほと



久土。薪のかまどで、20年位前までは炊事に使っていた

## かまど焚き

んどで魚などはめったに食べなかったし、野菜も、里芋は高級な方で大根汁に里芋が入るのはいい方だった。白菜も高かったので野菜菜に似た芭蕉菜という野菜を漬けた。

（原町・鳥山義雄さん、ふみさん）

・朝起きるとまず、かまどに火を付けて、赤金の釜をのせてお湯を沸かすんだけど、なかなか火が付かなくてね。引き屑に火を付けるんだつたから。久土の真ん中に棒を立ててね、ぎっちり詰めるんだけど、引き屑の灰つてね、軽いでしょ、久土の上に堤焼きの塩瓶を置くんだけど、その棚の上、何回拭いても灰だらけになつてね。よく叱られたのよ。

（二十人町・沼田きんさん）

## 薪拾い

・薪で炊事をしていた。今でいう東仙台、東照宮辺りの小田原山で杉の早枯れ木を拾ってきて、燃料にしていた。店でも薪を売っていたが、生



# 商店のにぎわい

家族みんなで切り盛りする店。

そんな店が軒を連ねて、町の活気をつくっていました。町にはときおり、振り売りの声も響きわたりました。

## 初売り

・鉄砲町でもやりましたね。正月二日に早朝から火を焚き、客に茶碗酒を振る舞ったものです。私の家は製麺屋ですが万手手でやるものでしたから重労働でした。たくさんの人を使っていました。ことに年末には三時頃から起きて、夜遅くまで働いたものでした。(鉄砲町・武田順三さん)

・大変なにぎわいで、前夜から店の前には行列が出来た。

(鉄砲町・伊藤きよさん)

・町内で盛んに行われてた。戦後も、何軒かはやっていました。お茶屋では、お茶箱が景品に出され、大きくて虫が付きにくいと重宝がられた。

(鉄砲町・浅野彦次郎さん)

・大晦日にお年取りをするのは、忙しくて大変だね。二日の日に初売りをしなけりやならなくてね。元旦から景品詰めをしましたからね。

(二十人町・沼田きんさん)

## 年越しそば

・借金取りの人のためにあつた。大晦日の十二時まで粘って集金して歩くので、そのためのそばだった。売り掛けなので、お互い様でどこかで滞ると困ってしまう。十二時を回ると借金は帳消しになった。

(鉄砲町・武田順三さん)

## 大売り出し

・町内の商店で行うくじ引きがあり、三角くじで当たりはタンス、自転車、炭一俵などで、はずれはマツチだったかもしれない。

(二十人町・八重樫洋子さん)

## 商家の切り盛り

・軒店で商売するだけでは思うように稼ぐことが難しかったので、店の主人は遠くまで外商に行くことが多かったんです。それで、母ちゃんたちは幼子を背負って店を切り盛りしていました。

(二十人町・小西芳雄さん)

# 田畑の仕事

少しでも多くの米を穫るために、田んぼ仕事に精を出した農家の暮らし。米づくりの合間をぬって野菜売りや花売りにも出かけました。

## 農作業

・現在では農耕用の牛馬は皆無となったが、昔は殆どの農家で牛馬を飼育していた。厩うまやから出る厩肥は堆肥になる。住宅の便所から汲み取った糞尿は四ツ樽に詰め、牛馬車で運搬し肥つぽに貯溜した。発酵させたものは貴重な有機肥料であった。田畑の耕しは牛馬で行うのが主体であり、田植えは全部手植えで、日の出から朝食前まで苗代で苗引きをし、朝食後から植え始めて日没まで続けるのであった。隣近所から手伝いを受けるのがいつもの互助習慣であった。昭和三十年代の終わり頃から自動耕運機などの機械が普及し始めたが、現在ではトラクター、乗用田植

機、コンバインなど大型化、機械化している。  
(新田)

## 米作り



代掻き(画/菊地周治さん。農村の暮らしの風景はすべて菊地さんによる)

### ●田起こし苗代

・季節も暖かくなると田起こし、堆肥運び、種まきの準備、苗代づくり、畑の蒔きもの、と忙しくなる。

(田子・今野安さん)

### ●代掻き

・荒代あらしよ、中代なかしよ、上代かみしよ、三段階で一週間ぐらいかかる。牛や馬などに引つけ、女の人たちが鼻どりをした。早い人で昭和三十年頃、耕運機で耕したという。

(田子・大泉清太郎さん)

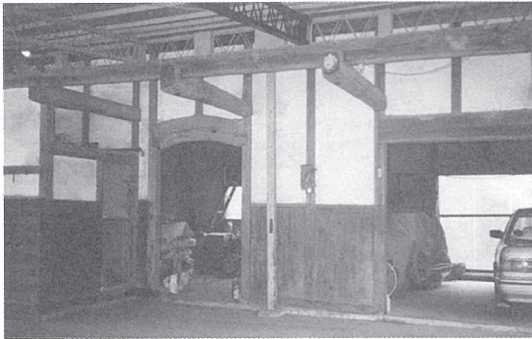
### ●田植え

・田植えは「ゆいっこ」と呼んだ結ゆいでやる。隣近所から岩切、新田など近くにも出かけた。朝四時〜五時に起き、先方の家の苗田に入る。苗は

# 牛馬を飼う

米づくりに欠かせなかったのが牛馬。  
農家にとって、馬はどろんこになっていっしょに働く  
家族ともいえました。

## 農耕馬



馬小屋（左）とこい（右）

・馬は農耕馬として田畑の仕事をし、また、駄賃取りに八木山から垂

炭を運んだ。冬には風呂水を沸かし馬を洗った。（岩切）

・馬小屋は三つくらいあった。一つの広さは十二畳半くらいで、若い馬が六頭くらいいました。四隅に金具打って手綱で結わえていたの。朝起きたら餌をやり、人が食事をしたら、また飼い葉と、暇なし食わせるの。作男は、雨降っても照っても草刈り。夏は庭いっぱいに草を広げ干し草にして束ねておくの。馬小屋の天井裏に間伐材を渡して、その上に上げておくんです。（岩切）

・大きな農家では馬に使う大きな桶（裾鉢）を持っていました。小判型の桶で、その中に湯を入れ馬の足や腹を洗ってやりました。馬を温泉気

分にさせ労をねぎらったのです。台所には大小三個の大きな釜が据え付けられており、一番大きな釜で湯を沸かしたのです。（田子・加藤襲吉さん、はるよさん）

## 馬を買う

・家では青森の野辺地、七戸から二歳の若駒を市で買ってきて、それを農家に渡して大きな馬と取り替えるの。何日間か家で飼育していると、若馬を欲しいとお客さんが見に来るんです。大きな馬小屋にいっぱい馬を入れておくんです。（岩切）

・馬一頭売れるたびにお祭りをするの。蒼前様といって馬の神様なの。神棚の中に蒼前様の社があつて、取

・つがいのウサギを飼って子を増やし、大きくして売りました。毛皮は軍用に、肉は食用に利用されました。針金のワナで野ウサギも捕りました。裏山（今の鶴ヶ谷団地）には、タヌキ、キツネ、テンやイタチもいました。

（燕沢）

原町・葉山保さん、庄司幸助さん、

若松繁男さん、菊池栄一さん、

二十人町・米山ふみ子さん、八重樫洋子さん

鉄砲町・湯田貞二さん、伊藤きよさん、

平貞吉さん、加藤喜一さん

宮城野・富沢清さん、大庭幸一さん、

佐藤仁治郎さん、門馬慶寿さん、

燕沢・嶺岸庄七さん、峰岸栄一さん、

丸山トモさん、安達なつよさん  
ほかたくさんの方々のお話をまとめました。

# 娯楽のいろいろ

こっそり入った映画館、年に一度の仙台の仲見世。  
心をとぎめかす楽しみ、指を折って待つにぎわいが、  
暮らしに彩りを添えていました。

## 映画

・国分町、一番町まで歩いて映画を見に行った。洋画はパティ館、電気館で、邦画は森徳、仙集館で上映されていた。当時のスターたちに板東妻三郎、栗島すみ子、柳サク子らが出た。

（原町・葉山保さん）

・仙台座というのが東四番丁の辺りにあり、漫才や無声映画等をやっていた。

（新田）

・国分町には世界館があった。中学生は映画は禁止されていて、見つかれば退学だった。

（二十人町・武田順三さん、ほか）

・女学生の時、吉屋信子の映画が見たくて友達と公園館に入ったが、運悪く見つかってしまい、退学にはならなかったが、始末書を書かされた。

（鉄砲町・石崎その子さん）

・黒いマントに着物を着て、中学生とバレないようにして見に行った。



# 戦争中の生活

戦争のために、おだやかな生活すべてが犠牲になった時代がありました。  
食べ物に事欠き、空襲におびえた毎日が続きました。

## 甲種合格は誇りなり

・二十歳になって、兵役検査に甲種合格だというと、もうその人の人格がそれで全て決まってしまうようでした。とにかく、高く評価されたものです。誇りであり、男の子には七五三の時に兵隊さんのかっこうをさせたりもしました。

(二十人町・及川とし江さん)

## 兵隊検査

・塩竈の時もあり、仙台で行われたこともあって、年ごとに一定してなかった。  
(田子・伊藤一男さん)

## 願掛け

・戦時中は、千人針せんになはりと八幡やほちまんがけをした。宮城野原にあった八幡神社から市内にある八幡神社を八カ所参拝し、兵隊さんの無事を願掛けした。

(宮城野・板橋しんさん)

## 戦時中の出来事

・原町駅から安養寺下の弾薬庫まで、弾薬運びの仕事をして日当をもらった。馬車が必要で馬を買ったが、三百六十円した。その頃米一俵が七、十円だった。神社の別当さんからもらってきた配給の二十俵のセメントで、大山祇神社の参道を作った。消防団が警防団に変わり、軍事教練を受けた。家財道具は全部畑に運んだ。

最後は命を守るだけ。畑も田も荒れ放題で、各班に防空壕を掘った。

(新田・小松吉男さん)

## 配給

・魚も薪も炭も配給でした。木と炭が中心の生活だったでしょ。薪は盛岡の方から、炭は北海道から貨車で運んできていました。内地の炭は、炭すごというのに入っていました。が、北海道炭は紙袋に入っていましたね。(二十人町・及川とし江さん)

## 食糧難

・米は配給で、公園、校庭など空いている土地は畑にして野菜を作った。小麦粉に、食べられる草なら何